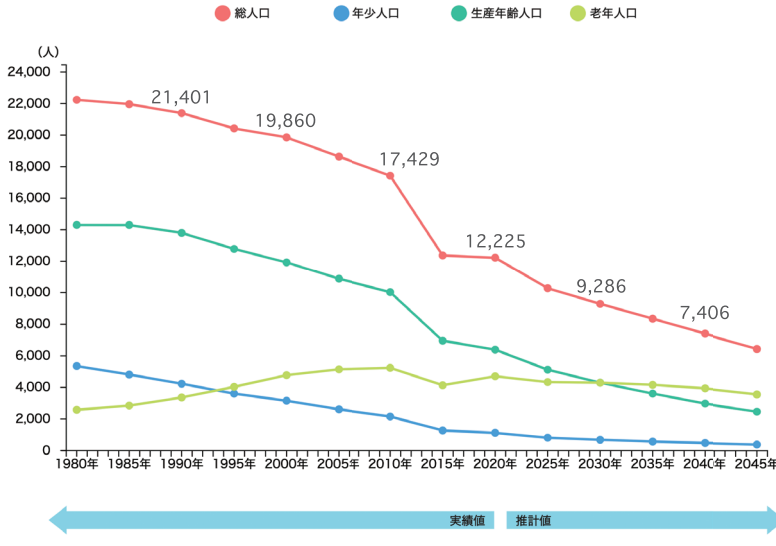


令和5年度 経営発達支援事業 地域経済動向分析結果

宮城県南三陸町

人口



年齢別人口推移

2020年の人口は12,225人。東日本大震災の影響もあり、10年前（2010年）の17,429人と比較して29.9%減少している。将来人口の推移を年齢別にみると、年少人口、生産年齢人口、老年人口のすべてが減少傾向で推移する見込みである。事業者は、少子高齢化の進行に対応したビジネスモデルの再構築が必要といえる。

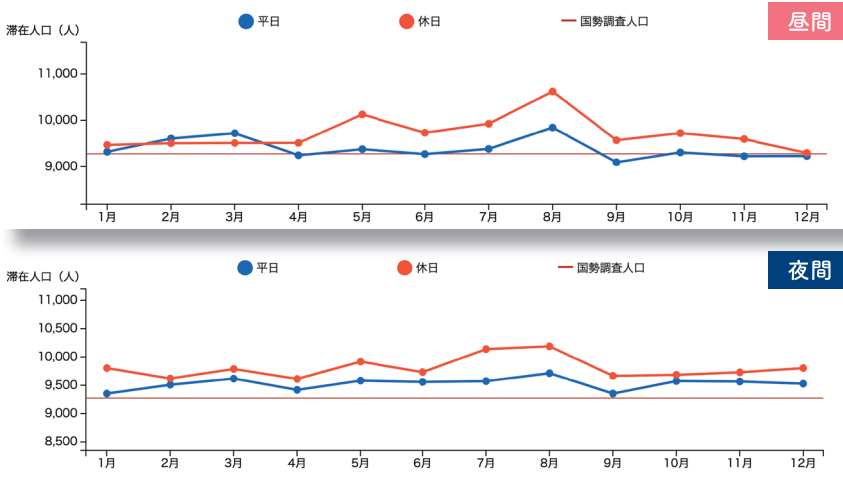
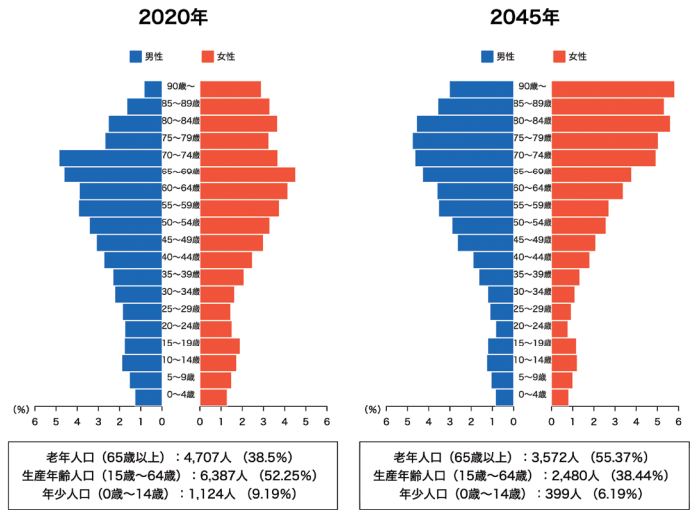
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす

* 人口マップ→人口構成→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の38.5%から2045年には55.4%まで上昇。一方、生産年齢人口は2020年の52.3%から2045年には38.4%まで低下する見込みとなっている。消費の縮小や労働力不足が予測される。

* 人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



滞在人口 (2022年、上:昼間、下:夜間)

昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。平日よりも休日の滞在人口が多いため、観光地としての姿を取り戻しつつあるといえる。また、夜間の滞在人口が昼間の滞在人口を上回っていることから、町外への勤務・通学者が町内への勤務・通学者を上回っていることが読み取れる。

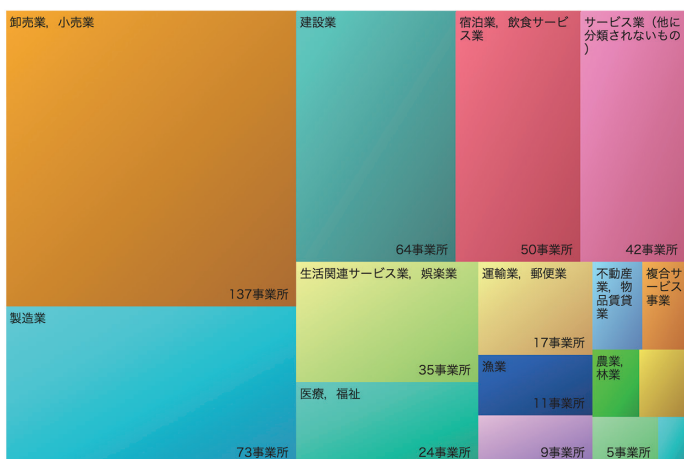
※昼間は14時、夜間は20時のデータを掲載している

* まちづくりマップ→滞在人口率

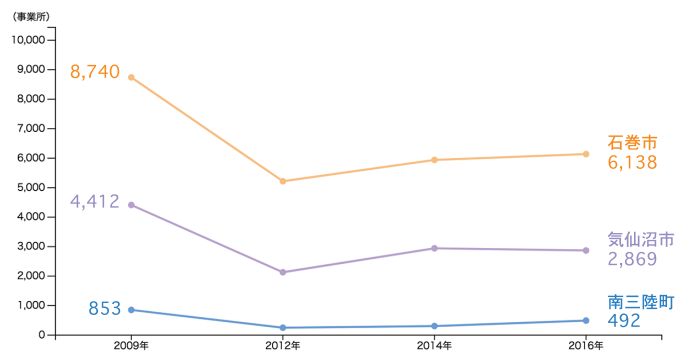
産業構造

対象地域：南三陸町
比較地域：石巻市、気仙沼市

事業所数（事業所単位）：492 事業所



* 左：産業構造マップ→全産業→全産業の構造
* 右：産業構造マップ→全産業→事業所数



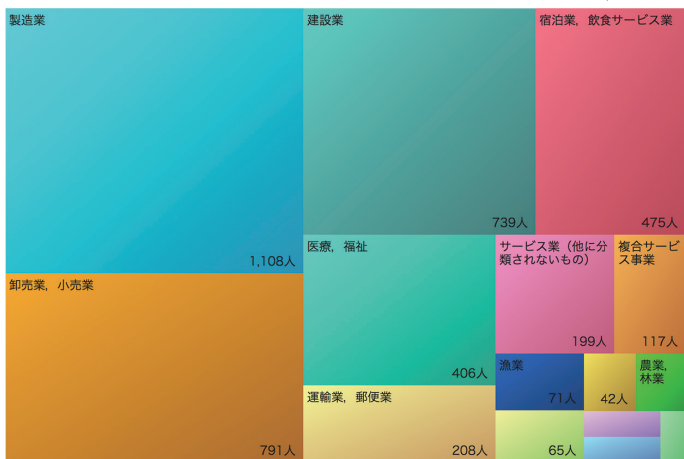
事業所数（事業所単位）大分類（2016年）

業種ごとの事業所数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の137事業所で、全体の27.8%を占めている。その後、「製造業」の73事業所、「建設業」の64事業所が続く。

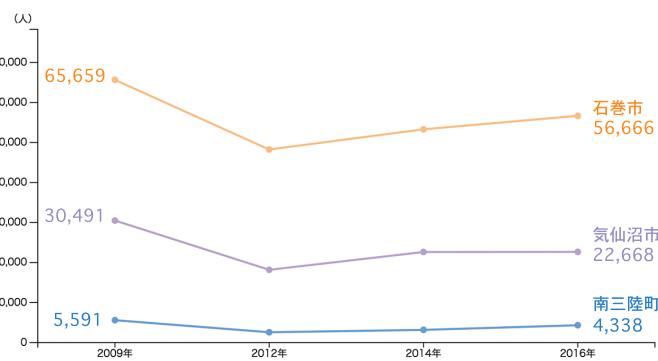
事業所数の推移

事業所数の推移をみる。2016年の事業所数は492事業所。7年前の2009年と比較すると42.3%減である。他地域をみると、石巻市は29.8%減、気仙沼市は35.0%減となっている。

従業者数（事業所単位）：4,338人



* 左：産業構造マップ→全産業→全産業の構造
* 右：産業構造マップ→全産業→従業者数（事業所単位）

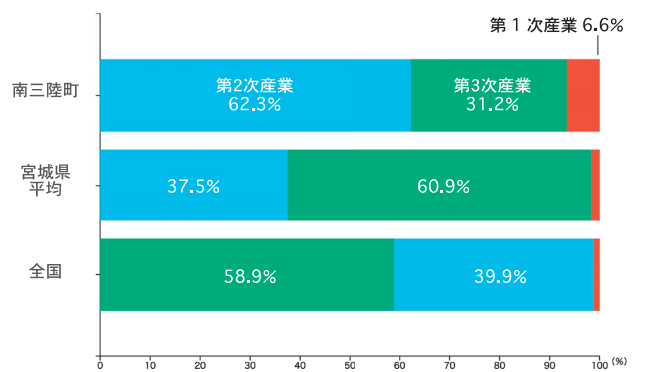


従業者数（2016年）

業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の1,108人で、全体の25.5%を占めている。その後、「卸売業、小売業」の791人、「建設業」の739人が続く。

従業者数の推移

従業者数の推移をみる。2016年の従業者数は4,338人。7年前の2009年と比較すると22.4%減少している。他地域をみると、石巻市は13.7%減、気仙沼市は25.7%減となっている。

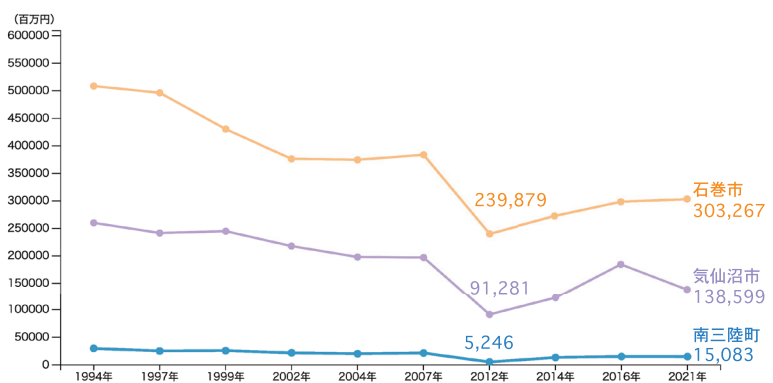


* 地域経済循環マップ→生産分析

地域内産業の構成割合

南三陸町の産業の構成割合を全国および宮城県と比較したグラフである。南三陸町は、第1次産業（6.6%）や第2次産業（62.3%）の割合が、全国や宮城県と比較して高くなっている。

小売業・卸売業



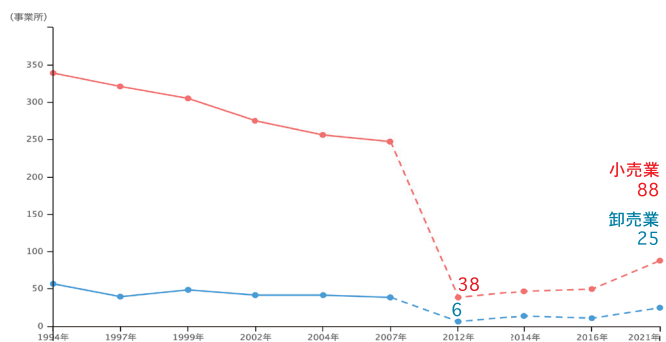
年間商品販売額の推移

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。南三陸町の販売額は151億円。9年前の2012年と比較すると187.5%増である。他地域をみると、石巻市は26.4%増、気仙沼市は51.8%増となっている。

* 産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

事業所数（小売業・卸売業）の推移

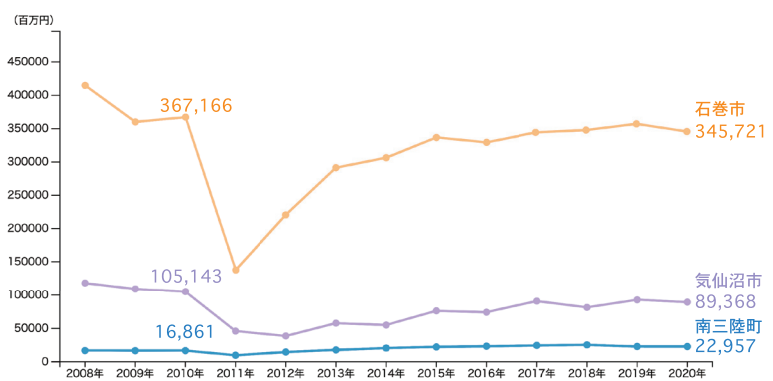
小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は小売業88事業所、卸売業25事業所。9年前の2012年と比較すると小売業は131.6%増、卸売業は316.7%増となっている。



* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

* グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサスー活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

製造業



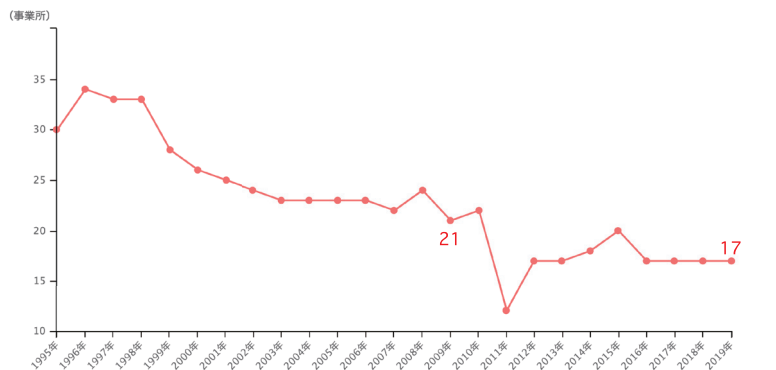
製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。南三陸町の出荷額等は230億円。10年前の2010年と比較すると36.2%増である。他地域をみると、石巻市は5.8%減、気仙沼市は15.0%減となっている。

* 産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等

事業所数（主要製造業）の推移

主要製造業である食料品製造業の事業所数の推移を示したグラフである。東日本大震災の影響もあり、10年前（2009年）と比較して19.0%減少している。一方、近年は横ばいで推移していることが読み取れる。



* 産業構造マップ→製造業→製造業の構造

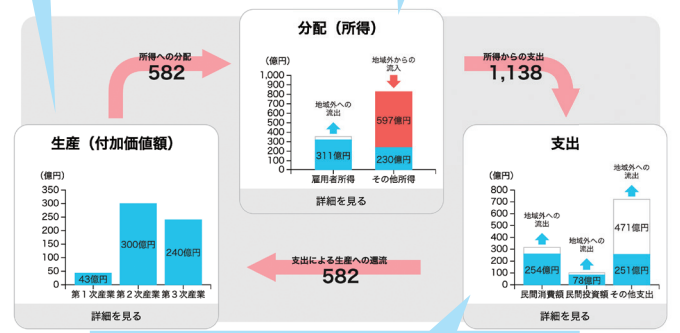
地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①南三陸町の企業は合計582億円の付加価値を生み出している。

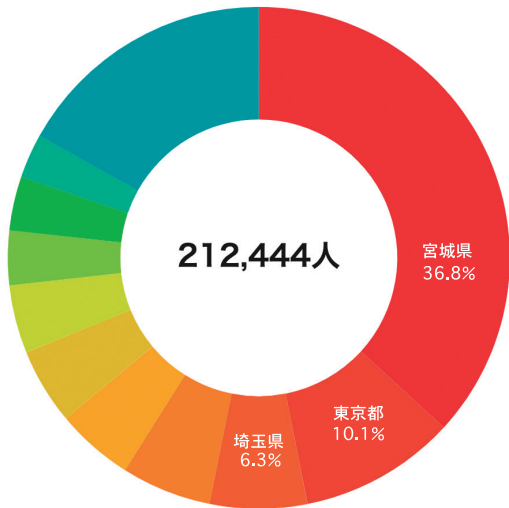
②付加価値のうち、支出に回されるのは1,138億円。町外からの流入があるので付加価値を上回っている。



③町内で支出に使われた金額は582億円。町外への流出があるため1,138億円より少ない。

* 地域経済循環マップ→地域経済循環図

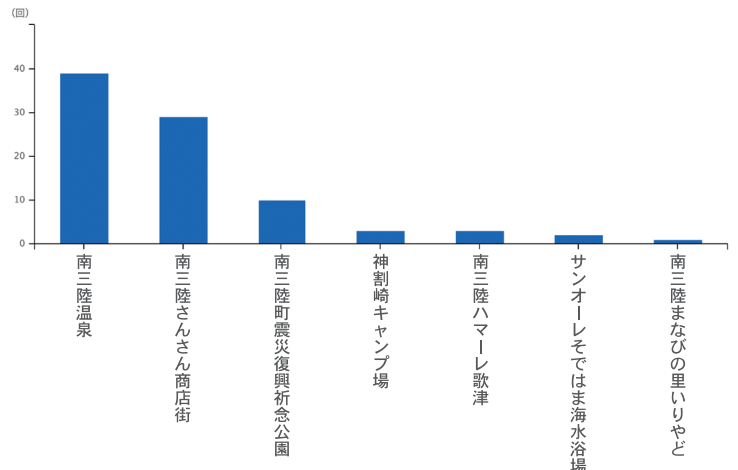
観光



* 観光マップ→From-to分析 (宿泊者)

From-to分析 (宿泊者) (2022年)

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合を示したグラフである。宮城県が36.8%と最も高く、東京都の10.1%が続く。



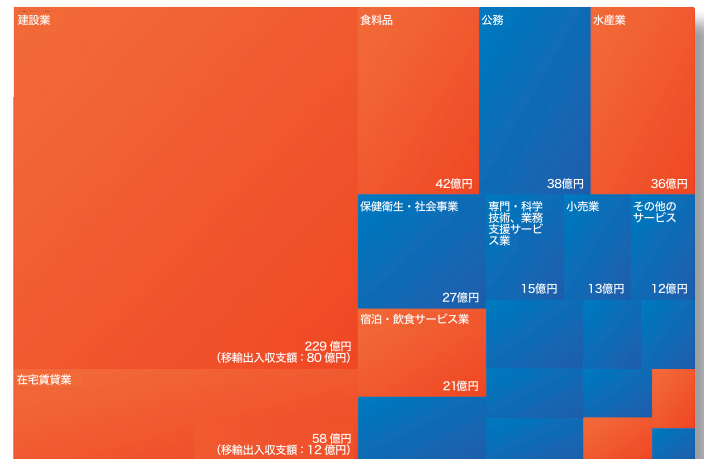
* 観光マップ→目的地分析

目的地検索ランキング (2022年3月・休日)

カーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「南三陸温泉」「南三陸さんさん商店街」「南三陸町震災復興祈念公園」の検索回数が多くなっている。

生産分析 (2018年)

左図の「生産(付加価値額)」の内訳を面の大きさで示したグラフである。付加価値額が高いのは「建設業」「住宅賃貸業」「食料品」である。なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業(赤色)と地域外から必要としているものを調達している産業(青色)を表している。



* 地域経済循環マップ→生産分析

経済分析については RESAS を活用しています

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

発行：南三陸商工会

〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田 56
TEL: 0226-46-3366 FAX: 0226-46-5335
URL: <http://www.m-shokokai.com/>